MARCH/地方国立大出身の独身中年男性たち(2)

――バブル前後世代のその後――

明治学院大学　小倉敏彦

1 目的

本報告は、能勢桂介による報告「MARCH/地方国立大出身の独身中年男性たち(1)」が指摘した男性の未婚要因のうち、恋愛・結婚に関する姿勢(「B 当事者男性要因」) について、さらに詳しい分析を行なう。収入や雇用形態、職場環境といった要素が結婚への動機づけとして大きな意味をもつことは事実だが、同年代の既婚男性への聴き取りなどから判断すると、独身者と既婚者を分けることになった事情は、そうした社会的要因には還元できない部分も少なくない。この報告では、独身男性が異性との交際や結婚をためらう"お金"と"仕事"以外の理由に焦点をあて、彼らの消極的な姿勢が、現在の日本社会においてどの程度の広がりをもつのか考察したい。

2 方法

上記の能勢報告と同様、30 歳代後半から 40 歳代の(首都圏に在住する)独身男性を対象に、学卒後の職歴と男女交際歴を軸とする半構造化インタビューを行なった。本報告はそのうち、正規職に就き、収入も職場内の地位も比較的安定している独身男性のケースを取り上げる。それらのデータをもとに、関連する先行研究・二次資料も参照しつつ、彼らが結婚しない/できない理由について理解を深める。

3 結果・考察

調査の結果、雇用・収入面では格別不利な状況にない男性が中年に至るまで結婚の時機を逸することになった理由としては、①結婚に向けた適切な意識化の遅れ、②結婚条件のミスマッチ(相続や介護、子ども、価値観など)、③男女交際・恋愛に関する経験不足、④男性特有の身体的コンプレックス(チビ、デブ、ハゲ、など)による気後れ、などの諸要因が折り重なっていることが分かった。このうち①は仕事の多忙や職場の変化による個人時間の圧迫が原因となっていた場合が多いが、②③④に関してはかなり個人差があり、より繊細な解釈を必要とする。現時点では、もともと恋愛に関して苦手意識がある"女性に対する気後れ"、加齢に伴う肉体的な変化などに対する“自己嫌悪”、趣味や私的な時間を優先する“自分の世界への固着”などの切り口が有効だと考える。これらの視点はすでに他の類似研究においても部分的に提示されているが(荒川 2015、田中 2015、杉田 2016)、当日の報告では個々のケースを具体的に分析することで、その射程と有効性を明らかにする。

また、これらの要因は網羅的なものではなく、例えば、安定した収入と豊富な異性経験がありながら気ままな独りの生活を優先する「独身貴族」など、いずれのパターンにも当てはまらない独身男性についても調査を行なう予定である。

文献)

荒川和久『結婚しない男たち』ディスカヴァー新書 2015
田中俊之 W(40 男〉はなぜ嫌われるか J イースト新書 2015
杉田俊介『非モテの品格』集英社新書 2016